

- 1 課題名 定着性魚類増養殖技術開発事業
- 2 区分 県単
- 3 期間 平成15年度～19年度
- 4 担当 養殖栽培部（南 友樹・坂本 博規）
- 5 目的

カサゴやオニオコゼは沿岸の岩礁域等に生息する定着性の強い魚種であり単価が高いことから、栽培漁業の対象種として適していると考えられる。そこで、カサゴやオニオコゼの種苗生産・中間育成や放流技術を開発するために仔稚魚飼育試験を実施した。また、放流効果を把握するためオニオコゼの標識放流を行った。

6 成果の要約

1) 試験方法

(1) カサゴ種苗生産：1t円形水槽、2t円形水槽、2.5t巡流水槽、および5t楕円水槽2面に設置した網かごにカサゴ天然親魚を收容し、水槽内に直接産仔させて生産を開始した。飼育水温は20℃に設定し、S型ワムシ、L型ワムシ、アルテミアおよび配合飼料を稚魚の成長に合わせて給餌した。飼育水は日齢5～10までは止水とし、その後は成長に合わせて注水量を増加させた。

(2) オニオコゼ稚魚の飼育密度試験：1.2t楕円形水槽2面にトリカルネット製網籠（横50×縦80×深さ30cm、飼育水深20cm）4個を垂下し、オニオコゼ稚魚（平均全長33.2mm、平均体重0.7g）をそれぞれ約1000尾（Ⅰ区）、2000尾（Ⅱ区）、3000尾（Ⅲ区）、および4000尾（Ⅳ区）を收容して飼育した。1日当たりの給餌量は試験開始から15日目までは試験開始時の全魚体重の4.2%、16日目から試験終了までは5.5%とし、平日の朝夕2回に分けて行った。試験期間は8月28日から9月29日の約1ヶ月間とした。試

験終了後、各区100尾ずつ稚魚を取り揚げて全長および体重の測定を行った。

(3) オニオコゼ標識放流：県北部栽培漁業センターより配布を受けて中間育成したオニオコゼ稚魚を田辺市新庄漁業協同組合地先の海域に放流した。

2) 成果の概要

(1) カサゴ種苗生産試験：採仔は平成18年1月18～28日にかけて行い、t当たり約15,000～30,000尾の仔魚を收容して飼育を開始した。水温は飼育水の加温により、飼育期間を通して18℃～19℃台で推移した。仔魚は飼育開始後14日目頃より減耗がみられ、数千尾台まで減少した。その後、目立った減耗は見られなかったものの、日齢40日頃以降大型魚の共食いによる減耗が発生した。日齢65～76日目での生残率は0.3～2.8%となり、平成18年4月3～4日に平均全長33.6～43.8mmの稚魚計5,854尾を取り揚げた。

(2) オニオコゼ稚魚の飼育密度別中間育成試験：成長はⅣ区で最も良好であり、飼育密度が高い区ほど成長率が良好であった。また、試験期間中における稚魚の生残率は全区で99%以上であった。（表1）

(3) オニオコゼ標識放流：本年度より標識方法を脱着しやすいリボンタグ装着から背鰭切除に変更し、平成19年2月16日に標識魚（平均全長76.5mm）7,650尾と非標識魚（平均全長60.5mm）3,500尾を放流した。

7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及：比井崎漁協および紀州日高漁協（旧御坊市漁協）において、放流稚魚の中間育成技術や標識放流について指導・普及を行った。

(2) 成果の発表：平成19年度県内養殖衛生対策会議

表1 オニオコゼ飼育密度別中間育成試験結果

試験区	收容密度 (尾)	收容時全長 (mm)	終了時全長 (mm)	総へい死尾数 (尾)	生残率 (%)
Ⅰ区	1,080	33.2 ± 3.87	45.0 ± 5.7	8	99.3
Ⅱ区	2,060		45.2 ± 5.2	16	99.2
Ⅲ区	3,090		46.0 ± 4.4	18	99.4
Ⅳ区	4,110		47.7 ± 5.4	32	99.2